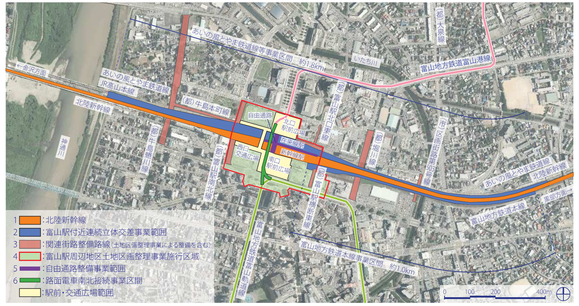
Ⅱ．富山駅周辺整備事業を構成する６つの事業

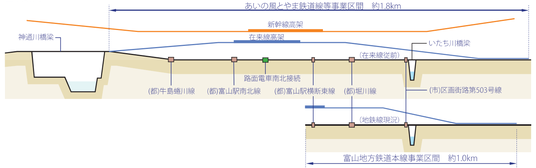
1. 北陸新幹線建設事業	北陸新幹線は東京から長野、富山を経由し大阪に至る約700kmの路線で、長野～金沢間は平成２７年３月１４日に開業しました。
2. 富山駅付近連続立体交差事業	北陸新幹線建設事業に併せ、富山駅周辺の抜本的な改善を図るため、あいの風とやま鉄道線、ＪＲ高山本線や富山地方鉄道本線を高架化するものです。
3. 関連街路整備事業	連立事業区間において、これまで鉄道により分断されていた南北市街地を結ぶ街路の新設・拡幅を行い、鉄道の高架化をいかした交通環境の改善を図るものです。
4. 富山駅周辺地区土地区画整理事業	富山駅周辺地区の一体のなまちづくりを推進するため、駅前広場や都市計画道路などの基盤整備とあわせ、駅周辺における土地利用の高度化を図るものです。
5. 自由通路整備事業	新幹線及び在来線の高架下空間を利用して自由通路を整備することで、富山駅周辺における歩行者空間の確保と公共交通の乗換えの円滑化を図るものです。
6. 路面電車南北接続事業	新幹線及び在来線の高架下に停留場を新設し、富山駅南北の路面電車路線を接続するものであり、富山駅の交通結節機能強化やLRTネットワークの形成による公共交通活性化を推進するものです。

このように、相互に関連する6つの事業を総合的に推進していくことにより、新たな時代に対応した南北一体的なまちづくりを実現していくことが、富山駅周辺整備事業の目的です。

【６つの整備事業の位置図】

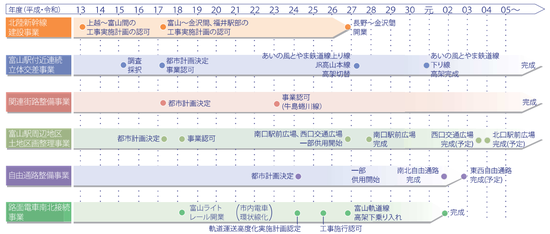


■横断図

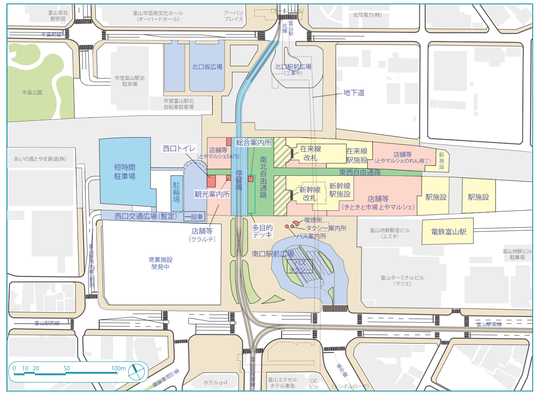


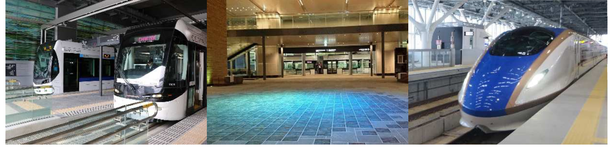
Ⅲ．富山駅周辺整備事業のスケジュール

平成27年3月の北陸新幹線開業後、平成31年3月にあいの風とやま鉄道線の全線高架化、令和2年3月に路面電車南北接続が完了しました。現在、北口駅前広場等の整備を進めています。



【富山駅周辺地区平面図（令和２年10月現在）】





富山駅周辺整備事業の概要

Ⅰ．富山駅周辺整備事業のコンセプトと５つの特徴

明治41年（1908年）に富山駅が現在の位置に設置されてから100年余りが過ぎ、平成27年（2015年）３月、北陸新幹線が開通し新しい時代の幕が切って落とされました。これに伴い、富山駅及び駅周辺は、県都富山の玄関口として、人・文化・情報が交流する新しい場となることを目指すとともに、コンパクトな都市を支える公共交通ネットワークの拠点として生まれ変わろうとしています。

基本テーマ

次の100年に受け継げる駅フロント整備

＜えき＞と＜まち＞の再構築を先導する駅及び駅前広場の整備

基本方針1
県都富山の新たな顔をつくる
◆富山の歴史や自然を活かして駅舎・駅広をデザインし、良好な景観を形成します。

基本方針2
多彩な公共交通を快適につなぐ
◆駅南北が一体化し、公共交通がコンパクトにつながる安全・快適な駅及び駅前広場を整備します。

基本方針3
都市拠点としての機能をそなえる
◆高架下等を活用し、広域商業、文化交流、業務等の都市機能を充実します。

５つの特徴

富山駅周辺では、北陸新幹線の整備をきっかけに在来線を高架化し、南北に分断されていた市街地を一体化するまちづくりが進められています。具体的には、次の５つの特徴があります。

1 コンパクトな連続立体交差

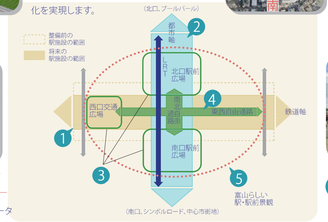
富山港線の路面電車化や新幹線整備に合わせて施工することで、コストの縮減と駅施設のコンパクト化を実現します。

2 連続する南北の都市軸

南北の市街地が高架下空間で結ばれ、ＬＲＴ、歩行者動線が連続し、新たな南北の都市軸を形成します。

3 駅とまちを結ぶ３つのロータリー

バス・タクシー専用ロータリーなどからなる南口・北口駅前広場と、高架下空間を活用した一般車専用の西口交通広場が駅とまちをつなげます。



4 東西南北を結ぶ自由通路

南北の駅前広場をつなげる広幅員の南北自由通路に加え、東西自由通路の整備により、鉄道利用者に限らない回遊性を生み出します。

5 富山らしさをいかした駅・駅前空間のデザイン

駅舎や駅前広場、軌道空間などが、調和した景観となるよう配慮し、県都の玄関口として富山らしく魅力あるものとなるよう整備を進めます。

問い合わせ先
富山市 活力都市創造部 富山駅周辺地区整備課　TEL 076-443-2016　e-mail toyamaeki@city.toyama.lg.jp
https://www.city.toyama.toyama.jp/katsuryokutoshisouzoubu/ekishuhenseibika/toyamaekishuhenseibi.html

R02.10作成

富山市